



ショートコメント

★★★

夏の終わりのクラシック (Adagio)

2024 年／韓国映画

配給：日活、KDDI／115 分

2025（令和 7）年 10 月 21 日鑑賞

テアトル梅田

Data 2025-98

監督・脚本：ユン・ソクホ

原作：伊吹有喜『風待ちのひと』（ポプラ文庫）

出演：キム・ジョン／ペ・ス
ビン／チョン・ヨンソ
ク／ユ・ミスク／

👁️👁️ みどころ

井上陽水と玉置浩二がコラボした『夏の終わりのハーモニー』は、名曲中の名曲だったが、さて『夏の終わりのクラシック』とは？本作の舞台は、済州島。美しい海の風景が広がる中で繰り広げられる、一見大阪のおばちゃん風の、ズケズケとモノを言う“中年おばさん”の意外な内面がストーリー構成上の大きなポイントだ。

他方、オペラ歌手を母親に持つ“良家のお坊ちゃま”は、家（豪邸）の整理のために訪れた済州島で偶然出会い、「クラシックを教えてください」と頼んできたこのおばさんと、一体どんな恋模様を展開していくの？

『夏の終わりのクラシック』というロマンティックなタイトルに似合うような似合わないような、そして、若い美男美女が繰り広げる悲哀物語とは全く異質の、中年同士のぎこちない恋模様の展開をしっかりと楽しみたい。

◆INTRODUCTION によると、本作は「日本中に『冬ソナ』ブームを巻き起こしたユン・ソクホ監督による待望のスクリーン最新作！」そして、「数々のドラマで若い男女のロマンスを描いてきた彼が本作で描くのは、“恋愛ドラマの巨匠”ソクホの集大成にふさわしい大人の男女の最後の恋。」だ。そして、その舞台は済州島だ。

奇しくも、私は 2025 年 10/4～13 のジャパネット「北海道から九州まで 感動の日本一周！」クルーズの企画で、10/10 に（2 度目の）済州島観光をしてきたところなので、その縁に感謝！

◆私は本作の主演女優のキム・ジョンも主演男優のペ・スビンも知らない。他方、本作は日本人作家伊吹有喜の原作『風待ちのひと』が初めて映画化されたものだそうだが、『夏の終わりのクラシック』とは、素晴らしいタイトルだ。かつてバブル全盛期時代にはカラオケで盛り上がっていたが、井上陽水と玉置浩二がコラボした『夏の終わりのハーモニー』（86

年)は名曲中の名曲だった。それを彷彿させる(?)『夏の終わりのクラシック』とは一体ナニ?

◆公式ホームページにおける本作の **STORY** は次のとおりだ。

夏の終わりの海辺の街で、偶然出会った男と女。

それは最後の恋の始まり。

夏が終わりに近づく頃、ヨンヒは毎年、済州島へとやって来る。一方、母の遺品を片づけるために済州島に来ていたジュヌ。2人が偶然出会った日の夜、ジュヌが海で溺れかけているのを助けたヨンヒは、彼の家で膨大な量のクラシックアルバムのコレクションを目にする。どうしてもクラシック音楽を教えてほしいと、必死になってジュヌに頼み込むヨンヒ。その様子はどこか意味ありげで、断り切れなくなったジュヌは庭の片づけと引き換えにクラシックを教える約束を交わすことに。ソウルでの暮らしに疲れ切っていたジュヌは、お節介でズケズケとモノを言うヨンヒのペースに巻き込まれていくうちに、少しずつ心を開いていく。だが実は、ヨンヒもまた過去に辛い体験をしていて……。人生の道に迷ってしまった2人は次第に想いを寄せ合っていくが、夏は終わりを告げようとしていた――。

導入部でのヨンヒ(キム・ジヨン)とジュヌ(ペ・スビン)との出会いを見ていると、ヨンヒの方が圧倒的に年上のように思えたが、実際は・・・?また、何でもズケズケとモノをいうヨンヒはいかに“大阪のおばちゃん”風であるのに対し、当初のひげぼうぼう状態から脱したジュヌのハンサムぶりは?こりゃとてもお似合いの2人とは思えなかったが、その後の展開は意外にも……。

◆演歌はもとより、最新ポップスもナツメロも大好きな私は、昔からクラシックも大好き。そんな私は、近時、ブルッフのバイオリン協奏曲第1番とスコットランド幻想曲に凝っており、毎晩眠る時にそのCDを一晩中流している。

それに対して、“ある事情”のために、夏の時期だけ済州島で伯母・スンジャ(チョン・ヨンソク)の経営する食堂に戻ってきているヨンヒは、メモに書かれたあるピアノ曲を探していたらしい。それは、あるピアニストが録音したバッハの『アダージョ』だが、その曲に誰かのハミングが録音されていたから不思議だ。

そんなヨンヒは海で溺れかけているところを救った男ジュヌの家(豪邸)の中で、膨大な量のクラシックアルバムのコレクションを目にしてびっくり。そこで、恐る恐るピアノ曲のことを聞いてみると、ジュヌはすぐにそのCDを探し出し、録音して渡してくれたからありがたい。感謝しきのヨンヒは、ジュヌに対して家の片付けをする代わりにクラシックを教えてほしいと頼み込んだが、そんな奇妙なお願いは一体なぜ?

◆石破茂政権で農水大臣を務めた小泉進次郎氏は自民党内で最も総理に近い人物と目されていたが、何らかの戦略・戦術の誤りによって、自民党総裁と第 104 代総理大臣の座を高市早苗氏に先行されてしまった。

彼の父親で 2005 年 8/8 の「郵政解散」を断行した小泉純一郎氏は私が尊敬する勝負師だが、同時にオペラ愛好者だった。そんな小泉純一郎氏が、済州島のジュヌの家に集まったオペラ歌手だったジュヌの母親・ユ教授（ユ・ミスク）のお弟子さんたちによる庭でのオペラパーティー（？）を見れば、きっと大喜びするだろう。そこで高らかに歌われるのは名曲『ラ・トラヴィアータ（椿姫）』だが、その素晴らしさは・・・？

それはともかく、ヨンヒとジュヌの交流が深まる中、スクリーン上では、ジュヌがいかに良家のお坊ちゃんであるかが明らかにされていく一方、ヨンヒの方はその夫や息子の影がチラホラと登場する中、何らかの深刻な事情に包まれていることが少しずつ明らかに・・・すると、そんな面でも、この 2 人は同じ年ながら、相性は最悪・・・？

◆済州島は小さな島だから、もともと海風が強い。そのため風力発電に適しているから、今回のジャパネットの済州島見学でも私はその風景を目にしたが、反面、台風がやってくると大変だ。もっとも、地震と違って台風は事前予測ができるから、「備えあれば憂いなし」だが、人間なかなかそんな理想どおりにはいかないものだ。



そのため、今や毎日のように交流の深まっていたヨンヒとジュヌは、来るべき台風に着いてジュヌの家の防備を強化していたが、風が強くなり、ヨンヒが帰れなくなってしまうとやむなく・・・ところが台風一過、一夜が明けると 2 人が寝ている部屋の前にジュヌの妻のものすごい形相があったから、アレレ、アレレ、こりや大変だ。

日本では部下の男性職員とラブホテルに通っていたという前橋市長の小川晶氏が「男女関係はありません」と明言し、不倫を否定していたが、それが通用し難いのは仕方なし。すると、本作に見るヨンヒとジュヌのこの姿は明白な不倫の現場・・・？これにて、45 歳同士の大人の恋の行方（？）はますます混沌の度を深めていくことに。さあ、『夏の終わりのクラシック』といかににもロマンティックなタイトルを付けられた本作の結末は？

2025（令和 7）年 10 月 25 日記